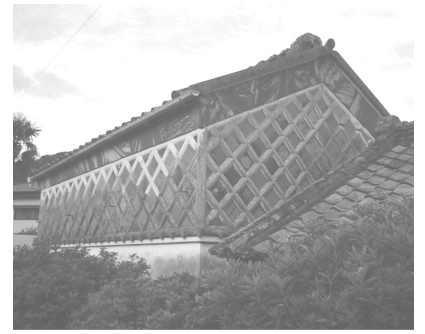




下田市白浜



下田市立野

## 2009「地域文化財専門家」育成研修を終えて

### ■受講のきっかけ

受講のきっかけは、ずばり古民家が好きだからです。なぜ好きなのかを改めて考えてみました。

私は、茅葺屋根の農家の家に生まれ育ったので、古いものへの愛着を自然と持ったのだと思います。

そこで生活する魅力とは何なのでしょう。

それは、ひと抱えもあるような太い大黒柱に守られた安心感かもしれません。もしくは、むき出しになった黒光りする梁の木組みの力強さ、真っ白な漆喰で塗られた真壁の美しさかもしれません。

いずれも現代の住宅が失ってしまったものばかりです。なかでも100年以上の歳月をかけて囲炉裏やかまどの煤で燻された古材の風合いは、新材で建てられた住宅では、決して味わうことのできないものです。100年以上の歴史を刻んだ古材のほのかな温もりを肌で感じながら、ほっと気持ちがやすらぎます。それは、今日では贅沢なライフスタイルなのかかもしれません。

3年前にこの茅葺屋根の自宅を改修することになり、先祖から受け継がれた家をどうしても残したくて、田の字を構成する部分の材料をすべて残し、下屋部分と水廻り部分を新たに増築する形で改修しました。屋根の茅葺は、22条地域に該当したため、残念ながら再生することはできませんでしたが。

この経験から古い歴史あるものを残していくことに非常に興味が出てきたのです。

### ■受講して勉強になったこと

文化財というと神社・仏閣をイメージしてしまいがちですが、今回は地域にある住宅・商業施設など個人の見解で文化財だと思うものを各自10件ほど探ってきて発表するという方法で、研修が始まりました。

地元の町を歩いてみると、普段見ているようでよく見ていなかった数々の文化財候補の建物があることに気づかされました。発掘してきた建物を9班に分かれ、候補物件を決め各自調査していき、最終的には所見・位置図・写真・図面・今後の展開や活用

方法を提案した内容を発表することが、研修の流れでした。やはり、実際に自分たちで行動し報告をまとめていく経験をさせて頂いたことはとても有意義な時間でした。

講義を通してさまざまなことを勉強しました。そもそも文化財とは何なのか？文化財建造物を評価するにあたり何に価値を見出すか？

特に印象に残っているのは、瀬口哲夫氏の講義のときに教えて頂いた「世間遺産」という言葉です。世間遺産は「世界遺産」とは違い、より身近な資産ということのようです。

「世間遺産ワークショップ」というものが活発で、身の回りにあるもので残したいもの、大切なものをデジカメで写していくやり方で、子どもや老人も気軽に参加されているようです。

こうした活動を通して、自分にとっても、皆にとっても大切と思われるものを共有化していくことが大事だと感じました。そして、地域住民と価値の共有化をすることで、地域に存在する歴史的建造物の解体を防ぐことにつながるのではないかと、ということ学びました。

### ■この研修を今後の自分にどう生かすか

今回の研修はただスタートラインに立っただけなのかと思います。自分自身は、まだまだ磨かねばならぬ課題が山積みだと実感しました。

まずは、今回研修で紹介して頂いた文化財を巡ってみることから始めるつもりです。そして、文化財を見る目を養うこと、文化財の価値を分析する力をつけることが大切だと思いました。

(H21「地域文化財専門家」研修生 金指勢津子)



下田市白浜：伊豆石積みの蔵